

第一種衛生管理者 令和5年10月公表問題解説【関係法令のみ】

問1 常時400人の労働者を使用する製造業の事業場における衛生管理体制に関する(1)～(5)の記述のうち、法令上、誤っているものはどれか。
ただし、400人中には、屋内作業場において次の業務に常時従事する者が含まれているが、その他の有害業務はないものとし、衛生管理者及び産業医の選任の特例はないものとする。

深夜業を含む業務	200人
多量の高熱物体を取り扱う業務	50人
塩素を試験研究のため取り扱う作業を行う業務	30人

(1) 総括安全衛生管理者を選任しなければならない。

・製造業の総括安全衛生管理者選任要件は、300人以上。本問は労働者数が400人なので、総括安全衛生管理者を選任しなければならない。正解

(2) 衛生管理者のうち少なくとも1人を専任の衛生管理者としなければならない。

・衛生管理者の専任要件は、常時1000人を超える事業場、500人を超える事業場で有害業務に30人以上従事する事業場。本問は400人なので専任の義務はない。誤り

(3) 衛生管理者は、全て第一種衛生管理者免許を有する者のうちから選任することができる。

・当該事業場は、製造業なので第一種衛生管理者の有資格者から選任しなければならない。正解

(4) 産業医は、この事業場に専属でない者を選任することができる。

・産業医の専属要件は、常時1000人以上の事業場、または暑熱・寒冷・深夜業務等に常時500人以上の労働者を、従事させる事業場なので専属させる必要はない。正解

(5) 特定化学物質作業主任者を選任しなくてもよい。

・試験研究の業務には、作業主任者の選任義務はない。正解

問 2 次の業務に労働者を就かせるとき、法令に基づく安全又は衛生のための特別の教育を行わなければならないものはどれか。

- (1) 赤外線又は紫外線にさらされる業務
- (2) 有機溶剤等を用いて行う接着の業務
- (3) 塩酸を用いて行う分析の業務
- (4) エックス線回折装置を用いて行う分析の業務
- (5) 廃棄物の焼却施設において焼却灰を取り扱う業務

主な必要な作業	主な不要な作業
<ul style="list-style-type: none"> ○チェーンソー（伐木、かかり木、造材） ○作業室、気こう室へ送気する空気圧縮機運転業務 ○潜水作業への送気バルブ・コック操作業務 ○高压室内作業に係る業務 ○エックス線ガンマー線透過写真撮影作業 ○酸素欠乏危険場所での作業 ○特定粉じん作業 ○石綿の取り扱い作業 ○廃棄物焼却施設での焼却灰、燃え殻 	<ul style="list-style-type: none"> ●エックス線回折装置を用いて分析の業務 ●有機溶剤業務 ●特定化学物質業務 ●削岩機、チップングハンマー等の振動工具の扱い ●強烈な騒音を発する場所における作業 ●潜水作業 ●重量物の取り扱い業務

問 3 次の免許のうち、労働安全衛生法令に定められていないものはどれか。

- (1) 潜水士免許
- (2) 高压室内作業主任者免許
- (3) エックス線作業主任者免許
- (4) 石綿作業主任者免許⇒技能講習である
- (5) ガンマ線透過写真撮影作業主任者免許

作業主任者の選任が必要な作業	選任が不要な作業
<ul style="list-style-type: none"> ○高压室内作業（免） ○エックス線作業（免） ○ガンマ線透過写真（免） ○有機溶剤業務（技） ○特定化学物質等業務（技） ○第1種・2種酸素欠乏危険作業（技） ○鉛業務（技） ○石綿作業（技） ○アーク溶接作業（技） 	<ul style="list-style-type: none"> ●試験研究のための特定化学物質、有機溶剤等取り扱い ●レーザー光線業務 ●騒音作業 ●潜水業務 ●はんだづけ作業 ●溶融した鉛を用いた金属の焼き入れ作業 ●粉じん作業

（免）免許 （技）技能講習

問 4 次の特定化学物質を製造しようとするとき、労働安全衛生法に基づく厚生労働大臣の許可を必要としないものはどれか。

- (1) アルファーナフチルアミン
- (2) 塩素化ビフェニル(別名PCB)
- (3) オルト-トリジン
- (4) オルト-トルイジン
- (5) ベンゾトリクロリド

許可を必要とするものは、特定化学物質第1類物質

- ① ジクロルベンジジン及びその塩
- ② アルファーナフチルアミン及びその塩
- ③ 塩素化ビフェニル (P C B)
- ④ オルト-トリジン及びその塩
- ⑤ ジアニシジン及びその塩
- ⑥ ベリリウム及びその化合物
- ⑦ ベンゾトリクロリド

問 5 次のAからEの粉じん発生源について、法令上、特定粉じん発生源に該当するものの組合せは(1)-(5)のうちどれか。

- A 屋内において、耐・火物を用いた炉を解体する箇所
- B 屋内の、ガラスを製造する工程において、原料を溶解炉に投げ入れる箇所
- C 屋内において、研磨材を用いて手持式動力工具により金属を研磨する箇所
- D 屋内において、粉状の炭素製品を袋詰めする箇所
- E 屋内において、固定の溶射機により金属を溶射する箇所

- (1) A, B
- (2) A, E
- (3) B, C
- (4) C, D
- (5) D, E

粉じん作業	特定粉じん発生源
① 鉱物等を掘削する場所における作業（湿潤土石を除く）	① 坑内の鉱物等を 動力 により掘削する箇所
② 坑内の鉱物等を破碎、粉碎・・・	② 坑内の鉱物等を 動力 により破碎し、粉碎し、ふるい分けする箇所
③ 研磨剤を用いて、研削盤、研磨盤 グラインダー 等の動力により岩石、鉱物金属を研磨する場所	
④ 鉱物をグラインダーで研磨する場所における作業	
⑤ セメント、粉状の鉱石等を袋詰めし、積込み、積み降ろす場所	⑤ 屋内の セメント、フライアッシュ 等粉状の 鉱石 等を 袋詰め する箇所

問 6 有機溶剤等を取り扱う場合の措置について、有機溶剤中毒予防規則に違反しているものは次のうちどれか。

ただし、同規則に定める適用除外及び設備の特例はないものとする。

(1) 地下室の内部で第一種有機溶剤等を用いて作業を行わせるとき、その作業場所に局所排気装置を設け、有効に稼働させているが、作業者に送気マスクも有機ガス用防毒マスクも使用させていない。

・規則第5条により正しい。

(2) 屋内作業場で、第二種有機溶剤等が付着している物の乾燥の業務に労働者を従事させるとき、その作業場所に最大0.4m/sの制御風速を出し得る能力を有する側方吸引型外付け式フードの局所排気装置を設け、かつ、作業に従事する労働者に有機ガス用防毒マスクを使用させている。

・側方吸引型外付け式フードの局所排気装置の制御風速は、最大0.5m/s。誤り

(3) 屋内作業場に設けた空気清浄装置のない局所排気装置の排気口で、厚生労働大臣が定める濃度以上の有機溶剤を排出するものの高さを、屋根から1.5 mとしている。

・規則第15条の2により正しい

(4) 屋外作業場において有機溶剤含有物を用いて行う塗装の業務に常時従事する労働者に対し、1年以内ごとに1回、定期的に、有機溶剤等健康診断を行っている。

・屋外作業なので当該規則は適用除外。正解

(5) 有機溶剤等を入れてあった空容器で有機溶剤の蒸気が発散するおそれのあるものを、密閉して屋内の一定の場所に集積している。

・規則第36条により正しい

問 7 管理区域内において放射線業務に従事する労働者の被ばく限度に関する次の 文中の [1内に入れるAからDの語句又は数値の組合せとして、法令上、正しいものは(1)～(5)のうちどれか。

「男性又は妊娠する可能性がないと診断された女性が受ける実効線量の限度は、緊急作業に従事する場合を除き、[A]間につき[B]、かつ、[C]間につき[D]である。」

	A	B	C	D
(1)	1年	50mSv	1か月	5 mSv
(2)	3年	100mSv	3か月	10mSv
(3)	3年	100mSv	1年	50mSv
<input checked="" type="radio"/> (4)	5年	100mSv	1年	50mSv
(5)	5年	250mSv	1年	100mSv

電離放射線障害防止規則第 4 条

①実効線量の限度

5年間につき100ミリシーベルト、かつ、1年間つき50ミリシーベルト

問 8 労働安全衛生規則の衛生基準について、誤っているものは次のうちどれか。

(1) 炭酸ガス(二酸化炭素)濃度が0.15%を超える場所には、関係者以外の者が立ち入ることを禁止し、かつ、その旨を見やすい箇所に表示しなければならない。

・炭酸ガス濃度が1.5%を超えるが正しい。誤り

(2) 強烈な騒音を発する屋内作業場においては、その伝ばを防ぐため、隔壁を設ける等必要な措置を講じなければならない。

・規則第584条により正しい。

(3) 多筒抄紙機により紙を抄く業務を行う屋内作業場については、6か月以内ごとに1回、定期的に、等価騒音レベルを測定しなければならない。

・規則第591条により正しい。

(4) 著しく暑熱又は多湿の作業場においては、坑内等特殊な作業場でやむを得ない事由がある場合を除き、休憩の設備を作業場外に設けなければならない。

・規則第614条により正しい。

(5) 屋内作業場に多量の熱を放散する溶融炉があるときは、加熱された空気を直接屋外に排出し、又はその放射するふく射熱から労働者を保護する措置を講じなければならない。

・規則第608条により正しい。

問 9 法令に基づき定期に行う作業環境測定とその測定頻度との組合せとして、誤っているものは次のうちどれか。

(1) 溶融ガラスからガラス製品を成型する業務を行う屋内作業場の気温、湿度及びふく射熱の測定 → 半月以内ごとに1回 【正しい】

(2) 通気設備が設けられている坑内の作業場における通気量の測定 → 半月以内ごとに1回 【正しい】

(3) 非密封の放射性物質を取り扱う作業室における空気中の放射性物質の濃度の測定 → 1か月以内ごとに1回 【正しい】

(4) 鉛ライニングの業務を行う屋内作業場における空気中の鉛濃度の測定 → 6か月以内ごとに1回

・鉛濃度測定は1年以内ごとに一回測定が正しいので本問は誤り。

(5) 常時特定粉じん作業を行う屋内作業場における空気中の粉じん濃度の測定 → 6か月以内ごとに1回 【正しい】

酸欠その時で／1月、2月、6月／通・気温半月、鉛年

(1月⇒放射線 2月⇒中央管理方式空気調和設備 半月⇒通気量、気温、湿度 1年⇒鉛 これら以外全て⇒6月)

[関係法令(有害業務に係るもの以外のもの)]

問21 産業医に関する次の記述のうち、法令上、誤っているものはどれか。ただし、産業医の選任の特例はないものとする。

(1)産業医を選任しなければならない事業場は、常時50人以上の労働者を使用する事業場である。

・施行令第5条により正し。

(2)常時使用する労働者数が2,000人を超える事業場では、産業医を2人以上選任しなければならない。

・則第13条1項4号により、労働者数が3,000人を超える事業場が正しいので本問は誤り。

(3)重量物の取扱い等重激な業務に常時500人以上の労働者を従事させる事業場では、その事業場に専属の産業医を選任しなければならない。

・専属の要件は、常時1,000以上の事業場、有害業務に500人以上の労働者を従事させる事業場。則第13条1項3号により正しい

(4)産業医が、事業者から、毎月1回以上、所定の情報の提供を受けている場合であって、事業者の同意を得ているときは、産業医の作業場等の巡視の頻度を、毎月1回以上から2か月に1回以上にすることができる。

・則第15条により正しい。

(5)産業医は、労働者に対する衛生教育に関することであって、医学に関する専門的知識を必要とする事項について、総括安全衛生管理者に対して勧告することができる。法第13条第5項により正しい。

問2 2 衛生委員会に関する次の記述のうち、法令上、誤っているものはどれか。

- (1) 衛生委員会の議長を除く委員の半数については、事業場に労働者の過半数で組織する労働組合がないときは、労働者の過半数を代表する者の推薦に基づき指名しなければならない。 **法第17条により正しい。**
- (2) 衛生委員会の議長は、原則として、総括安全衛生管理者又は総括安全衛生 管理者以外の者で事業場においてその事業の実施を統括管理するもの若しくはこれに準ずる者のうちから事業者が指名した委員となるものとする。 **法第17条、18条により正しい。**
- (3) 事業場に専属ではないが、衛生管理者として選任している労働衛生コンサルタントを、衛生委員会の委員として指名することができる。
- (4) 作業環境測定を外部の作業環境測定機関に委託して実施している場合、当該作業環境測定を実施している作業環境測定士を、衛生委員会の委員として 指名することができる。 **法第18条③により、当該事業場の労働者でなければならないので本問は誤り。**
- (5) 衛生委員会の付議事項には、長時間にわたる労働による労働者の健康障害 の防止を図るための対策の樹立に関することが含まれる。 **則第22条第1項9号により正しい。**

問2 3 労働安全衛生規則に基づく医師による健康診断に関する次の記述のうち、誤 っているものはどれか。

- (1) 雇入時の健康診断において、医師による健康診断を受けた後3か月を経過 しない者が、その健康診断結果を証明する書面を提出したときは、その健康 診断の項目に相当する項目を省略することができる。 **則第43条により正しい。**
- (2) 雇入時の健康診断の項目のうち、聴力の検査は、1,000Hz及び4,000Hzの 音について行わなければならない。 **則第43条により正しい。**
- (3) 深夜業を含む業務に常時従事する労働者に対し、6か月以内ごとに1回、 定期に、健康診断を行わなければならないが、胸部エックス線検査につい ては、1年以内ごとに1回、定期に、行うことができる。 **則第45条により正しい。**
- (4) 定期健康診断を受けた労働者に対し、健康診断を実施した日から3か月以内に、当該健康診断の結果を通知しなければならない。 **則第51条の4により、遅滞なく結果を通知するが正しいので、本問は誤り。。**
- (5) 定期健康診断の結果に基づき健康診断個人票を作成して、これを5年間保 存しなければならない。 **則第51条により正しい。**

問24 事業場の建築物、施設等に関する措置について、労働安全衛生規則の衛生基準に違反していないものは次のうちどれか。

- (1) 常時男性35人、女性10人の労働者を使用している事業場で、労働者が臥床することのできる男女別々の休養室又は休養所を設けていない。 則第618条により正しい。
- (2) 常時50人の労働者を就業させている屋内作業場の気積が、設備の占める容 積及び床面から4 mを超える高さにある空間を除き450m³となっている。 則第600条により、最大45人までなので、50人は間違い。
- (3) 日常行う清掃のほか、毎年1回、12月下旬の平日を大掃除の日と決めて大 掃除を行っている。 則第619条により、6月以内ごとに一回定期に行うので間違い。
- (4) 事業場に附属する食堂の床面積を、食事の際の1人について、0.5m²としている。 則第630条により、1平方メートルなので間違い。
- (5) 労働衛生上の有害業務を有しない事業場において、窓その他の開口部の直接外気に向かって開放することができる部分の面積が、常時床面積の25分の1である屋内作業場に、換気設備を設けていない。 則第601条により、常時床面積の20分の1が正しいので、本問は間違い。

問2 5 労働安全衛生法に基づく労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査（以下「ストレスチェック」という。）及びその結果等に応じて実施される医師による面接指導に関する次の記述のうち、法令上、正しいものはどれか。

- (1) ストレスチェックを受ける労働者について解雇、昇進又は異動に関して直接の権限を持つ監督的地位にある者は、ストレスチェックの実施の事務に従事してはならない。 則第52条の2により正しい。
- (2) 事業者は、ストレスチェックの結果が、衛生管理者及びストレスチェックを受けた労働者に通知されるようにしなければならない。 則第52条の12により、検査を行った医師等から遅滞なく結果を通知するが正しいので、本問は間違い。
- (3) 面接指導を行う医師として事業者が指名できる医師は、当該事業場の産業医に限られる。 則第52条の10により間違い。
- (4) 面接指導の結果は、健康診断個人票に記載しなければならない。 則第52条の18により間違い。
- (5) 事業者は、面接指導の結果に基づき、当該労働者の健康を保持するため必要な措置について、面接指導が行われた日から3か月以内に、医師の意見を聴かなければならない。 則第52条の19により、遅滞なく行わなければならないので本問は間違い。